

内水試図

コクチバス (スモールマウスバス) 茨城県内で初採捕！

9月28日に霞ヶ浦流入河川の桜川でアユ調査のため投網による魚類採捕を行ったところコクチバス (スモールマウスバス) が1尾採捕されました (図1)。コクチバスの採捕、生息確認は県内初です。

採捕された魚は上あごの後端が目中央まででオオクチバス (ラージマウスバス) に比べ口が小さい、鱗が細かく鱗数が多い、体側の縞模様は横縞であるなど全ての特徴が文献 (図2) に一致したので、コクチバスと断定しました。

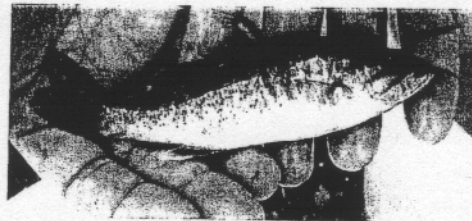
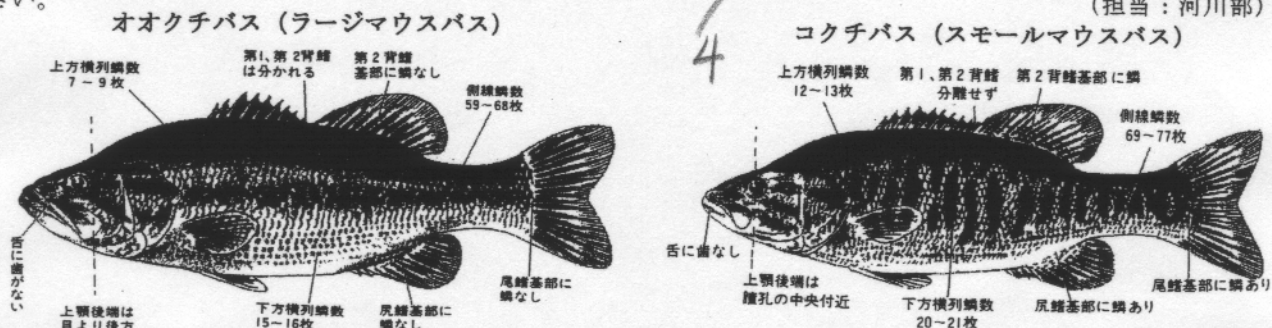


図1 桜川で採捕されたコクチバス

桜川はバス釣りの人が多く、これまでの内水試の調査でも全採捕魚の3%をオオクチバスが占めています (1996年～1998年)。中には全長12cmのアユを丸飲みしていたものもありました。今回初めて採捕されたコクチバスはオオクチバスよりも引き味が強く最後まで抵抗するので、バス釣りの人には好まれるようです。採捕場所は、つくば市の太田堰上流の流速1m/sの水域で、夏にアユが多く釣れていた場所です。コクチバスは魚食性が強く、オオクチバスより低水温域及び流水域 (河川) に適応しており、アユの生息域と重なるので、近年増加した桜川のアユ資源にとっても脅威です。採捕されたコクチバスは全長13cmの小型魚 (推定1才) なので、過去に放流された親魚が産んだ子どもか、新たに桜川に稚魚で放流されたものであることが考えられます。茨城県では、昨年からの漁業調整規則でブラックバス (オクチバス、コクチバス等)、ブルーギルの移植放流が禁止されています。

コクチバスはオオクチバスと同じように北米原産の魚ですが、日本国内での生息確認はオオクチバスよりずっと遅く、1991年の長野県の野尻湖での例が初めてです。しかしその後、1996年には全国10カ所、1998年には46カ所と急激に生息域が拡大しています。茨城県周辺では、栃木県中禅寺湖、福島県楡原湖にいたことが知られていましたが、栃木水試からの情報では昨年2月に宇都宮市内の田川 (鬼怒川支流) で2尾、7月に那須郡小川町の那珂川で1尾採捕されており、桜川だけでなく本県の他河川にも徐々に忍び寄っているようです。発見したときはぜひ情報をお寄せ下さい。

(担当：河川部)



金子陽孝・若林努(1998)「ブラックバス移植史」つり人社。

図2 オオクチバスとコクチバスの見分け方

内水面水産試験場一般公開のお知らせ

今年も県民の皆様には本県河川湖沼の環境や生物、漁業や当場の業務について理解を深めていただくために、下記のとおり当場の一般公開事業を開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。

記

日 時：1999年10月31日 (日) 9:00～15:00

場 所：茨城県内水面水産試験場 (行方郡玉造甲1,560 霞ヶ浦ふれあいランドとなり)

催し物・ミニ水族館「茨城の川と湖の魚」

- ・プランクトン・水生昆虫観察コーナー「顕微鏡でのぞく小さな世界」
 - ・パネル展示「内水試の業務紹介」「小中学生の自由研究」
 - ・川魚PRコーナー「加工品・料理店の紹介」
 - ・自然観察会 (集合9:50 10:00～11:30) 霞ヶ浦の魚をつかまえて観察します。
- 先着30名 (当日9:00から整理券を配ります) 雨天・荒天時中止
- ・講 演 (13:00～14:00) 「茨城の淡水魚」「霞ヶ浦のもう1つの漁業・網いけす漁業」